

関西学院大学 研究成果報告

2019年 5月31日

関西学院大学 学長殿

所属：神学部
職名：教授
氏名：岩野祐介

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input checked="" type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	海洋社会における文化交流と平和的關係構築に関する研究 —アジア・太平洋の文脈から
研究実施場所	関西学院大学（西宮市）、高雄科技大学（台湾）、香港
研究期間	2016年 4月 1日 ～ 2019年 3月31日（36ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

大学共同研究「海洋社会における文化交流と平和的關係構築に関する研究—アジア・太平洋の文脈から」においては、研究会、講師を招いての公開講演会を軸としつつ、各自が自らのテーマにそって研究をすすめる形で活動をおこなった。

研究会

2016年6月14日 第一教授研究館 会議室1

森田雅也が2015年夏のパラオ訪問の成果について報告し、その後ディスカッションを行った。2015年度に李恩子が実施したポナペ島調査との比較も含め、大日本帝国期の南洋諸島政策とその後の歴史を立体的に考察することができる研究会であった。

2017年4月28日 国際学部中会議室

国際学部に客員教授として招聘された、研究協力者であるOkihiro教授より、トランプ政権成立後のアメリカ合衆国における学問的な国際協力についての環境の変化等について伺った。

2017年5月19日 国際学部IS302教室

共同研究メンバーである山が、雑誌等の媒体における「南の島」のイメージについて、

奄美群島の与論島を実例として発表した。

2017年6月16日 国際学部IS302教室

のち（2018年度）に共同研究者に加わっていただいた国際学部のティモシー・ツー教授を発表者として招き、日本と西洋の文化交流における媒介者としての華人のはたらきについて伺った。

2018年7月10日 第一研究棟一階 会議室1

2018年3月に台湾・高雄で行われた調査研究旅行、また研究会についての報告を岩野がおこなった。

2018年11月13日 吉岡記念館三階 会議室2

沖縄の高校教員・彫刻家金城実氏を講師とし、もと国会議員の服部良一氏をまじえて、沖縄の基地問題の現状、平和教育の実践についてお話を伺った。沖縄の外から見ると、熱心な平和教育が行われているように見える沖縄であるが、経済格差が深刻な影響を青少年に与えていることを、金城氏は保護司としての実際の経験を交えて話された。

2019年1月22日 吉岡記念館三階 会議室2

共同研究メンバーである国際学部客員教員の黄昭淵韓国国立江原大学教授に、「東アジアの華夷意識」と題してご発表いただいた。黄氏は、いわゆる「東アジア」の国際関係が、漢字文化圏の中心としての中国によって展開してきたこと、明末～清初の人物呉三桂に対する日中韓の歴史的評価のちがいを通して話された。

公開講演会

2016年10月14日 関西学院会館ベーツチャペル

シカゴ大学教授Bruce Cumings氏を講師に招き、「Noと言える北朝鮮」の題で、RCC（キリスト教と文化研究センター）と合同で公開講演会を実施した。Cumings氏は、金家の世襲になっている現体制について、「崩壊するのは時間の問題」という見解がアメリカを中心とする側からの希望的観測に過ぎず、事実3代まで続いていることを挙げ、また外交面での進展があったのは対話路線をとった時期に限られていることを指摘された。

2017年7月14日 国際学部IS302教室

研究協力者であるGary Okihiro教授が” Our Island World” の題で講演した。大陸的な文化中心の従来の歴史観に対して、海による広大なつながりの豊かさ、「領土」概念をひっくり返す可能性を含むIslandのあり方を提示するものであった。

調査研究旅行、海外での研究会

2018年3月12日 台湾国立高雄科技大学 外語学院応用日語学系 D305会議室

研究協力者である台湾国立高雄科技大学の赤江教授、同外語学院院长葉淑華教授をまじえ、日本キリスト教研究からみた台湾キリスト教史について、共同研究メンバーである岩野が研究発表を行った。

日本同様、16世紀・17世紀にヨーロッパからプロテスタント、カトリック双方がもたらされている一方で、大陸中国との関係もあり、日本キリスト教史とは対照的な歴史を歩んでいることが示された。質疑のなかで、台湾の山岳系先住民のあいだに日本主義がかなり定着していたこと、それゆえ、第二次世界大戦後に感じられることになった精神的空白をキリスト教が埋める結果になった、という非常に興味深い見解が現地研究者より述べられる等、非常に有益な研究会となった。

高雄での調査旅行については、3月10-12日の間で実施した。

2019年1月25-29日 香港調査旅行

宗教間対話のセンターを目指して創建された道風山修道院、香港での自然保護・海岸保護

の取り組みを示す実例として西貢地域の自然公園を訪ね、香港でのキリスト教の現状を知るため香港中文大学崇基学院礼拝堂での礼拝に参加し、また国際的ビジネスセンターとしての香港について知るためJ.P.モーガン香港支部Executive DirectorであるNora Choi-Lee氏と面会した。

日曜日午後には、平日ハウスメイドとして働いているという東南アジア系の女性たちが、公園や広場など公共の場所で、集まって過ごす姿が多数見られた。住み込みメイドは、休みに行く場所がなく、このように過ごすのだという。日本も外国人労働者を受け入れるのであれば、考えねばならない問題であろう。

なお、森田が2017年11月1-2日に韓国・済州島の新羅ホテル大会議室で開催された第4回アジア・太平洋海洋文化国際会議(APOCC)に出席し、「日本海洋ネットワークの要としての神戸文化」と題して発表したこと、それに先立ち、10月31日に済州島美術館会議室で開催された「世界海洋文化国際会議(IOCC)」発足準備委員会に出席し、ともに理事に選出されたことを併せて記しておきたい。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。